
24時間耐久鬼ごっこ×けいおん

スティーヴ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

24時間耐久鬼ごっこxけいおん

【Nコード】

N8417X

【作者名】

ステイヴ

【あらすじ】

「ダウンタウンのガキの使いやあらへんで」の罰ゲーム史上最悪と呼ばれる「24時間耐久鬼ごっこ」を「けいおん」のメンバーで書いてみました。

HTTのメンバーが鬼に捕まり容赦無くキツイ罰を受けさせられます。

原作が知りたい方はガキの使いDVDの第1巻をご覧ください。

そういうシーンを見たくない方は閲覧をご遠慮下さい。

理解出来る方どうぞ！

評価やコメントもダウンロード受け付けます。

プロローグ

12月某日 AM8:30 桜ヶ丘高校体育館内
冬休みのある日、HTTのメンバーはさわこに無人の体育館に呼び出されていた。

律「何なんだ？今日は？」

澪「さあな」

唯「さわちゃん、用があるってなんだろうね？」

紬「何かしらね」

梓「何か・・・嫌な予感が・・・」

とその時・・・

ポンポンポンポン

澪「ひっつっ!!」

律「なんだあ!？」

さわこ「やっほー!」

唯「あっさわちゃん!」

梓「何ですか・・・今の音・・・?」

紬「うふふ．．．びっくりしたわ」

さわこ「さあーみんな揃ってるわね!？」

律「さわちゃん、今日は何の用!？」

さわこ「うふふふ．．．りっちゃん!よくぞ聞いてくれたわ!！」

梓「いや．．．普通ですけど．．．」

さわこ「今日はみんなであるゲームをしたいと思って呼び出したのよ!！」

澪「ゲーム．．．ですか?」

唯「何か面白そうだね、あずにゃん!」

梓「そんなのん気な．．．」

さわこ「今からみんなにやってもらう」「あるゲーム」その名もズバリ!！」

一同「」「」「」「」「」

さわこ「24時間耐久鬼ごっこよ!!!！」

「同」「」「」「」??「」「」「」

さわこ「あれ〜みんなリアクション薄いわねえ・・・」

律「いや・・・さわちゃん、何それ？」

漣「24時間？鬼ごっこ??意味が分からないです！」

さわこ「そのまんまの意味よ。24時間この体育館の中でみんなには鬼ごっこをしてもらうの」

唯「へえ〜面白そうだね!!!」

紬「鬼ごっこ・・・私、昔からみんなで作ってみたの〜」

梓「何言ってるんですか2人とも！24時間ですよ!!!」

さわこ「ウフフフフ・・・唯ちゃん、ムギちゃん！梓ちゃんの言う通りよ！」

唯紬「」?」「」

さわこ「あなた達はまだこの鬼ごっここの本当の恐ろしさを分かってないわ！」

漣「」どっしりっしりっすっ..」

さわこ「詳しいことはやっていくうちに分かるわよ。さて基本的な

ルールを説明するわ。あちらをご覧ください!」

さわこの指差す先には真つ黒で中央に滑り台があり、左右にドクロマークの描かれた謎のボックスがあった

律「なんだあ?ありや???」

さわこ「あそこから全身黒タイツの鬼が飛び出して来るからみんなはひたすら逃げてちょうだい。もし鬼に捕まったら、鬼の人の胸のところ罰の内容が書かれているから捕まった人はそれを受けることになるのよ!」

漣「そんな...」

梓「ちよつ...そんなのおかしいじゃないですか!何で私達がそんなことやらなきゃいけないんですか!?!」

さわこ「逃げるのはこの体育館のフロア中だけよ。もし体育館より外に逃げたらその時は殺すわ」

梓「(私の訴えシカトじゃん...しかも殺すって...)」

さわこ「さあみんな、ジャージに着替えて!9時からスタートするから5分前にはここに集合してね」

漣「ちよつと...先生!まだやるって...」

さわこ「時間厳守よ!...」

律「（独裁体制かよ．．．）」

開始

AM8:55 体育館内

HTTは全員ジャージに着替えてさわこを待っていた。
そしていつの間にか体育館の中央にはコタツが置いてあった。

梓「結局着替えちゃった・・・」

紬「まあまあまあなんだか面白そうじゃない」

唯「ムギちゃんの言うとおりだよ、あずにゃん！」

律「お前らはのん気でいいなあ・・・」

漣「すごく心配だ・・・」

ポンポンポンポン

漣「ビクッ!!」

さわこ「みんなちゃんと集まってるわね」

梓「て言うか・・・さっきからこの変な音はなんなんですか!?!」

さわこ「みんな準備は出来てる?あつ・・・言い忘れてたけどトイレは逃げ込む以外なら自由に使っていていいから。それと真ん中にあるコタツはくつろぎスペースよ」

梓「(またシカト・・・)」

さわこ「さぁ・・・そろそろはじめるわよー!あっ最後にはみんなにご褒美用意してるから楽しみにしててねー!」

唯律「「ご褒美!?!」」

さわこ「そうよ。みんながとーっても喜ぶものよ!」

漣「(そんなものいらなから帰りたい・・・)」

さわこ「さぁみんな覚悟はいい!?はじめるわよー!」

唯「うわわっ・・・どうしょ・・・」

さわこ「24時間耐久鬼ごっこ・・・よーい・・・」

スターーーーーート!!!! AM9:00

ブシューウウーーーー 鬼(デコピン)登場

漣「ひいっ!」

唯「何だっ!?!」

唯「はわわわ．．．!」
紬「あらまあ」
梓「にゃっ!?!」

鬼(デコピン)「ダダッ」

律「やべっ!みんな逃げろ!」

梓「デコピンって書いてありますよ!」

唯「逃げる逃げる」

紬「あゝれ」

透「いやああああ!」

鬼「ダッダッダッダ」

「ガシッ!?!?!」

紬「きゃあ!」

唯「ああっ!ムギちゃんが捕まった!」

罰執行

鬼「グググッ」

「ベシッッ」

紬「ああっ．．．痛い．．．」

漣「やめてえ!!！」

バッチ————ン!!!!

漣「いっつたぁ————い!!！」

ブシューウウ———— 鬼(タイキック)登場

唯「また出たよぉ!!！」

梓「もう嫌ですう!!！」

律「タイキックはヤバイ!!！」

紬「えっ!!!?タイキックって何なの?」

漣「もぉ……いやぁぁぁ!!！」

鬼(タイキック) ダダダダダダダ

唯「ひええええええ!!！」

律「こいつ速い!!！」

漣「絶対にいやぁぁぁ!!！」

紬「(タイキック……何かしら……?)」

梓「タイキック嫌ですう!あっちに行くですう!!！」

ガッツ ドテーン!!

鬼(タイキック)「!!」ダダダダダダダダ

律「梓がコケたぞ!!」

唯「あずにゃん逃げて!」

梓「ひえええ．．．助けてくださーい!!」

鬼(タイキック)ダダダダ ガシツ

梓「いやあああ!!」

紬「梓ちゃん．．．残念ね．．．」

唯「あずにゃん．．．」

漣「(はあはあはあ．．．た．．．助かった．．．)」

罰執行 補充要員2名登場 梓の両腕を抱え上げ立たせる

梓「にゃっ!!何ですか!?!」

鬼(タイキック)シュツシュツシュツシユ ハアアアアア．．．

バシーーーーー!!!!!!!!!!!!!!

梓「ぎにゃあああああ……!……!」

AM9:30

AM9:30

梓「うとうとう．．．私のオシリがあ．．．」グスツ．．．

唯「あずにゃん大丈夫？」

律「確かにアレは相当．．．」

紬「（あれが．．．タイキック！）」

漣「早く帰りたい．．．」

ポンポンポンポン

一同「「「「うわああ！」「」「」

さわこ「やつほーーーーー」

律「なんださわちゃんかあ．．．」

唯「びつくりしたよお」

さわこ「全く．．．ビビり過ぎなのよあなた達は」

漣律梓「「「（お前もやってみろ！！！）」」「」

さわこ「ほら、朝ごはんよ」

唯「えっ！ごはん！？やったあ！」

律「ごはんと味噌汁と焼き魚に納豆と焼きのりかぁ～まさに日本の朝ごはん！」

さわこ「あとこれ、梓ちゃんに使って。ひえピタと氷枕よ」

梓「あつ．．．ありがとうございます．．．」

漣「よかったな梓」

さわこ「まだ始まったばかりよ～これくらいでへこたれないでね！スタコラサツ」

律「帰るのはやつ!!」

紬「とにかくいただきましよう、私みんなのお茶入れるわ」

漣「ありがとなムギ」

唯「よしっ私はあずにゃんのオシリにひえピタを貼るよ」フンスッ

梓「結構です！自分でやれますから!!」

唯「まあ～おかたいこと言わずに．．．」

梓「お断りします!!」ペタペタ

唯「あずにゃん．．．」シユン

紬「まあまあまあまあ．．．唯ちゃん、朝ごはん食べましよう」

唯「はっ!!そうだ朝ごはん!いったただっきまーす!」ガツガツ

漣「立ち直りはやつ!」

唯「おいし～」

律「はあ～味噌汁うめえ．．．なんだか少し落ち着くなあ．．．」

紬「そうねえ．．．」

漣「私は全然落ち着かない」

梓「いてて．．．私もです」

律「あんまりピリピリするなよ～」

梓「何言ってるんですか!まだあと23時間くらいあるんですよ!」

ブンブン！

唯「あずにゃん大丈夫だよ〜しばらく鬼さんは出て来ないよ〜」

梓「どうしてわかるんですか？」

唯「んん〜．．．なんとなくなあ〜??」

梓「はあ〜．．．唯先輩らしいですね．．．」

唯「でも梓ちゃん．．．唯ちゃんの言うとおりよ。まずは一旦落ち着いた方がいいと思うわ」

梓「まあ．．．それもそうですね！いちいち気にしてたらきりがな
．．．」

ブシューウウー—— 鬼（ジャイアントスイング）登場

律「うおっ!?! 出た！」

漣「ええ〜もう来たのか!?!」

梓「やっぱり出たじゃないですか!?!」

唯唯「「面目ない!?!」」

鬼（ジャイアントスイング）ダツダツダツダツダ

律「ひえええ〜こっち来るなあ!?!」

漣「バカっ! お前こそ私に近づくな!?!」

梓「ちよつと律先輩! こっち来ないでください!?!」

鬼（ジャイアントスイング）ダツダツダ ガシッ

梓「にゃあああ！！ちよつと律先輩！！！！」

律「梓スマン！でもおかげで助かった！」

梓「田井中ああー！ー！ー！ー！」

罰執行 梓足払いされる

梓「にゃっ！痛い！」

鬼（ジャイアントスイング）ガシッ
ブオンブオンブオンブオンブオン

梓「ひにゃあああああああ！」

唯「うわああ．．．あずにゃんまわってるまわってる」

紬「ちよつと．．．楽しそうね」

漣「どこがだっ！」

モニタールーム

さわこ「ウフフフ．．．みんな頑張ってるわね」

『にゃああああああ』 『あずにゃん』 『お気の毒だな』

さわこ「まだまだこれからよみんな！さあ「刺客1号」そろそろ出

動よ!」

刺客1号「私、そんな名前じゃないです」

AM10:00

梓「うう．．．目は回るし．．．オシリはまだ痛いし」

唯「あずにゃん、元気だしなよ!」

梓「唯先輩はまだ何も受けてないからそんなことが言えるんですよ!」

律「確かに私と唯はまだ何も受けてないなあ．．．」

梓「お2人と1度タイキックとかやられてみてくださいよ!」

唯律「それはヤダ!」

紬「まあまあまあ」

漣「でも何か逃げられる方法はないのかなあ!」

律「全速力で突っ走るしかないだろ．．．」

唯「んゝ．．．!そうだ!いいこと思いついた!」

漣「何だ唯?」

唯「あのね鬼さんが出てきたら誰か1人はコタツの中に隠れるんだよ!他のみんなは走って走って攪乱させるんだよ!」

律「そんな無茶な．．．」

漣「いやでも．．．案外イケるんじゃないか!」

紬「確かに．．．動くものをついつい追ってしまっつてことはあるかもしれないわ」

梓「本気ですか!」

漣「でも．．．まず誰がやる??」

一同「「「「「「「「「「「「「「」

梓「やっぱりここは律先輩か唯先輩がやるべきなんじゃないですか！？」

唯律「「何で！！？」「」

漣「確かに．．．お前らはまだ罰を一回もつけてないしなあ」

紬「2人とも頑張つて！」

律「ちよつと待てよ！私はその作戦に賛成はしてないぞ！第一、ここは発案者の唯がやるべきなんじゃないのか！？」

唯「ええ〜そんなあ〜．．．」

漣「まあそれもそうだが．．．」

梓「じゃあ唯先輩！」

紬「唯ちゃんお願い！」

唯「ううう〜ん．．．わかった！私やつてみるよ！！」「フンス！」

漣「本当か！？」

律「よく言つた！それでこそ友達だ！！」

梓「唯先輩．．．ちよつと見直しました！」

紬「唯ちゃんかつこいいわ！」

唯「えへへ〜もつと誉めてえ．．．」テレテレ

ブシューウウー—— 鬼（ケツハリセン）登場

唯「ひええええええええええ！！」「ダダダッ

律「あつ！〜こら！何で逃げるんだよ！！！」

紬「ちよつと唯ちゃん！」

漣「唯！話が違つぞ！！！」

梓「唯先輩！見損ないました！！」

鬼（ケツハリセン）ダッダッダッダッダ

律「うわぁ！こっち来たぁ！」

鬼（ケツハリセン）ダダダダッ ガシッ

律「やだぁ！離せえ〜！」

唯「りっちゃん！ゴメンねえ！！」

罰執行 補充要員1名登場 律を四つん這いにさせる

律「うわっやめろ！」

鬼（ケツハリセン）ググググッ

スパーーーーーーン！！！！

律「いってえええーーーー！！！」

AM10:30

AM10:30

唯「りつちゃん．．．みんな．．．ごめんね．．．」

律「いつつ．．．全く自分からやるって言うておいて」

紬「唯ちゃん、駄目じゃない」

梓「しっかりしてください！」

漣「次こそ本当に頼むぞ！」

唯「わかった任せて！次は絶対逃げないから！！」

律「本当に大丈夫か！？」

唯「大丈夫だよ！もし次ぎ逃げたら次からギー太の弦の張替え自分ひとりでやるから！」フンス！

漣「それは当たり前のことだ！！」

梓「また私にやらせるつもりだったんですか！？」

唯「えへへ～面目ない．．．」

律「全く．．．次は絶対頼むぞ！？」

紬「唯ちゃん、ファイトよ！」

唯「大丈夫！次はぜった．．．」

ブシューウウー—— 鬼？（噛み付き注意）登場

唯「バツ！！ガサゴソモソモン

律「うわぁ！」

漣「逃げろー！！！」

梓「唯先輩．．．」

紬「あら．．．!?!?」

鬼和「みんなおはよう」

律「へっ．．．和!?!?」

透「和なのか!?!?」

紬「(全身黒タイツの和ちゃん．．．いいわぁ．．．)」
梓「ムギ先輩?」

鬼和「さわこ先生に頼まれてこの格好であなた達を捕まえるように
言われているの。じゃあ行くわよ!」
ダツダツダツ

律「うわっ!まさか和が出てくるとは．．．」

透「ひえっ!噛み付き注意って書いてあるぞ!」

紬「(和ちゃんの噛み付き．．．いいかも)」「ポケー
梓「ちよつとムギ先輩!逃げてください!!--!」

鬼和「あらっ?唯の姿がないわね．．．」

律「うわぁあゝ!」

鬼和「(律を射程圏内に捕らえたわ!さあ覚悟しなさい．．．んっ!
?あそこのコタツ．．．)」

唯 モゾモゾ

鬼和「(!!)．．．まさかあんなところにいるとはね．．．)」
ス
タスタスタスタ バサッ

唯「ひえっ！見つかつ．．．あれ？和ちゃん？？」

鬼和「おはよう、唯。それと．．．捕まえたわ」ガシッ

唯「えっ??捕まえたって．．．!!はっ！まさか和ちゃん．．．
鬼なの？」

鬼和「そう言う事よ、さあ腕を出しなさい」

罰執行

唯「えっ和ちゃん．．．?」

鬼和「観念するのね．．．唯」

ガブガブガブ

唯「いたたたたたたっ！和ちゃん！痛いよ」

鬼和「ふう．．．任務完了。じゃあみんな頑張ってね」スタコラサッ

一同「「「「「「「「「「「「」」」」」」」」」」」」

AM 11:00

唯「まさか和ちゃんが出てくるとはねえ．．．」
漣「ああ．．．予想外もいいところだ」
律「噛み付き注意って．．．和もよくやったもんだ」
紬「（唯ちゃん．．．うらやましい．．．）」
梓「（ダメだこの人．．．）」

AM11:50

漣「．．．．．」
唯「ふでぺんふうっふ．．．」
律「ふあああ．．．」
紬「何も来ないわねえ．．．」
梓「来ないなら来ないでいいじゃないですか!？」
唯「でも暇だよ、あずにゃん」
梓「じゃあもつと鬼が来たほうがいいってことですか!？」
唯「そうじゃないけど．．．ああ〜ひまだあ」
漣「梓の言う通りだぞ唯、こんな時にこそ休憩しておくべきだ」
唯「それもそうだねえ．．．」

一同「」（確かに暇だなあ）「」

律「そう言えばさあ〜さわちゃんがこのゲームが終わったらご褒美があるって言ってたじゃん!？」
紬「ああ．．．言ってた言ってた」
律「そのご褒美って何だと思っ?？」
唯「おおお〜そうだよねえ．．．何が貰えるんだろ〜．．．私はケーキがいいなあ」
梓「ケーキならいつも食べてるじゃないですか!私は新しい機材が欲しいです」

漣「そうだな、新しいアンプとかエフェクターとか．．．」
紬「私は何でもいいわあ〜さわこ先生から貰えるものなら．．．」
唯「ははっムギちゃんらしいねえ〜、りっちゃんは何だと思っ？」
律「そうだなあ．．．まあ〜さわちゃんだからなあ、あんま期待しても無意味な気がする．．．」
漣「まあ．．．わからないでもない」
律「どうせ」ごはんをご馳走する！」とか言っちゃって、安っぽいバイキングとかで済ませそう．．．」
梓「ありえますね」
律「だろ〜!?さわちゃん意外とケチっぽいし」
唯「あはは〜りっちゃん言い過ぎだよ〜」
律「化粧濃いし!」
唯漣梓「ぶつくつく．．．」
律「彼氏はいないし!」
唯漣梓「うひゃひゃひゃひゃひゃ!」
紬「あのっバイキングって．．．??」
律「ああ、バイキングってのは．．．」

モニタールーム

さわこ「きいいいい!〜!なんてことを言ってるのよあの子達は!」

?1「まあまあ先生．．．落ち着いて下さい」

?2「あのっ．．．そろそろ私達も行くんですか!？」

さわこ「いいえ．．．あなた達の出番はもう少し後よ．．．その前に．．．」

鬼（ひしゃく）ダッダッダッダ

梓「にゃあああ！ひしゃく〜！！」

鬼（超悪臭靴下）ダダダダダ

律「ぎえええ！よりによって一番来て欲しくないやつがあ！〜しかも速えええー！！」

鬼（胴上げ）ダッダッダッダ

唯「（胴上げて）・・・面白そう捕まってみよ！」「ピタッ

鬼（強デコピン）ダダダダ ガシッ ガシッ

透「ひいひいひい！」

紬「ああん・・・捕まっちゃった〜」

鬼（ひしゃく）ダッダッダ ガシィ

梓「ひしゃく〜やだぁ！」

鬼（超悪臭靴下）ダダダッ ムギユッ

律「ぐえええ！もう既にくせえ〜！〜！」

鬼（胴上げ）タツチ

唯「えへへ〜・・・捕まっちゃったぁ」

罰一斉に執行

ベシィッ！ ベシィッ！

カンカンコンコンコン

プウ
ン

ワッショイ！ワッショイ！ワッショイ！ワッショイ！

透「いったあぁあ！〜！」

紬「ううう・・・さっきより数倍痛い〜」

律「ムギの言う通りだ！あんなもんかさがされたんだぞ！」バンツ！！
梓「そんなに臭かったんですか？」

律「半端じゃねえよ．．．」
紬「どんな匂いだったの？」

律「ん．．．なんつーか．．．その．．．」
紬「なあに？」

律「ん．．．まあ簡単に言えば．．．」
梓「何ですか？」パクパク

律「腐ったゲ　ウ　ゴ！！！！」

漣梓「「ぶっ！！」」

律「げっ！きたねえ！」

漣「汚いのはお前だ！！」ゴホゴホッ

梓「律先輩！食事中ですよ！しかもカレー食べてるんですよ！！」
バンツ！！

律「お前らが言えっっていったんだろ！」

梓「でも言い方ってものがありますよ！」

漣「そうだぞ！状況を考えろ！」

律「なあに．．．！！」

紬「まあまあまあま．．．．．ぷぷっ．．．くっくっく
っ．．．ウヒヒ．．．」

漣「ムギ．．．??？」

紬「ふふふっ．．．ぷっ．．．クヒヒ．．．」

梓「ムギ．．．先輩．．．？」

紬「あーっはっはっはははは！！くっ．．．腐ったゲ．．．

ウ コ・・・腐ったゲ ウ コって・・・腐った・・・ウヒヒヒ
ヒッ

漣「わぁっ！ムギが壊れた!!」

梓「ムギ先輩!!落ち着いて下さい!!て言っか連呼しないで下さい
っ!!」

律「あははは!そっだぞムギ!もっと言ってやれ」

紬「くっくっく・・・ウ コ・・・くっ・・・腐った・・・ゲ
・・・ふひひひひひ」

漣「もうやめろっノノ」

梓「食欲完全に失せました・・・」

唯「カレーおいしっノノ」

漣「お前は何か反応しろ!!」ポコッ

唯「いたぁい!!」

ブシューウウー—— 鬼(水タオル)登場

漣「ひえっこんな時に!!」

唯「あぁっん・・・カレー食べてる途中なのに!!」

律「そんなこと言ってる場合かっ!!」

梓「ムギ先輩!早く逃げましょう!!」

紬「ふひひ・・・だっ・・・駄目・・・くっくっく・・・笑いすぎて・・・
立てない・・・」

鬼（水タオル）タッタッタッタ　キャッチ

紬「ああ．．．」

罰執行

ベシーンバチーンベシッ

紬「ああんっ．．．ひいん．．．いあっ．．．もっ．．．もっとお．．．」

唯漣律梓「」「」（）おいおいおい．．．（）「」「」

モニタールーム

さわこ「ふふふっ．．．そろそろあなた達の出番よ！刺客2号！刺客3号！」

刺客2号「よーし！頑張るぞー！」

刺客3号「あの．．．本当にやるんですか．．．？私．．．」

さわこ「刺客2号、その心意気やよし！刺客3号、頑張るのよー！」

PM13:30

漣「きつい・・・」

唯「漣ちゃん、頑張って！」

律「予想以上にしんどいなあ・・・」

紬「りっちゃんもファイトよ！」

梓「唯先輩とムギ先輩は元気ですね・・・」

唯「うんっ！私は意外と楽しいと思うよ！」

紬「唯ちゃんわたしも」

律「じゃあお前らこれから全部・・・」

ブシューウウー—— 鬼？（すべらない話）登場

律「わあっ！」

漣「ひいっ」

梓「にゃああ！」

唯紬「逃げるー」

鬼純「みなさーん」

唯「あれっ？純ちゃん！？」

漣「今度は鈴木さん!？」

梓「純・・・何やってんのよ・・・」

律「てか何・・・?すべらない話って・・・」

紬「(純ちゃんも・・・意外とアリね!)」

鬼純「えへへっ さわこ先生に頼まれて楽しそうだから参加しました!覚悟してくださいっ!」ダダダッ

唯「うわわっ」

律「とりあえず逃げろっ!」

梓「すべらない話って・・・何か嫌な予感がする!」

紬「(黒タイツの純ちゃん・・・)」ポケー

漣「ムギっ!何してるっ!」

鬼純「逃がしませんよっ!」ダッダッダッダ

唯「うわあ!純ちゃん来ないでっ」

鬼純「捕まえましたよ!唯先輩っ」ダッダッダッダ ガシッ

唯「ふええっ」

罰執行

鬼純「では今から私による絶対にすべらない話をしたいと思います
!はいっ拍手!拍手!」

唯「・・・おっ・・・」パチパチパチ

鬼純「あれは1週間前のことですが・・・」

5分後

鬼純「それですねっ！私がそこに行った時にはもう売り切れだったんですよ！それから・・・」

唯「・・・・・・・・・・・・・・・・」ハア

透律細梓「「「「・・・・・・・・・・・・・・・・」「「「」

10分後

鬼純「そしたら最後にその人何て言ったと思います!?!これがもう笑えちゃって・・・・・・・・」

唯「(うう)つらい・・・(」

透律細梓「「「「(あれは辛すぎる・・・)「「「「」

15分後

鬼純「以上!!!私のすべらない話でした!じゃあまだまだ頑張っ

てくださいね。また来ますからっ！」スタコラサッ

唯「……………」

澪「唯……大丈夫か？」

律「あんな話を正座で長々と……」

紬「唯ちゃん……」

梓「友人として私から謝ります……」

モニタールーム

純「どうでした先生!？」

さわこ「とっても良かったわ。さすがに私が見込んだだけのことはあるわね。／＼」

純「いやあ。そんな」テレテレ

刺客3号「(お姉ちゃん……)」

PM14:00

PM14:00

唯「はあゝ．．．」

漣「さすがの唯も疲れてきたようだな」

律「でもまだ19時間残ってるぞ．．．」

紬「頑張らなくちゃね！」

梓「ううゝ．．．」モゾモゾ

唯「あれっ？あずにやんどうしたの？」

梓「実はその．．．あの．．．」

漣「なんだ？具合でも悪いのか！？」

梓「いえっ．．．そうじゃなくて．．．」

律「もしかして．．．トイレか？」

梓「ゝゝゝ／／はい．．．」カアア

紬「トイレなら自由に使っていいって先生が言ってたから行って来れば！？」

梓「でも．．．」

律「あれゝゝ？？梓ももしかして怖いのかあ？」ケラケラ

梓「／／！！なっ．．．何言ってるんですか！！全然怖くなんかないですう！」プンポン

唯「あずにやん、一緒に行つてあげよつか？？」

梓「結構です！！自分一人で行けますから！」

紬「無理しなくていいのよ、梓ちゃん」

梓「大丈夫です！行つてやるです！！」スタスタスタ

唯「あずにやん一人で行つちやった．．．」

漣「全く．．．律があんなこと言うから梓が意固地になつたんだぞ

！
律「ごめんごめん」テへへ
紬「梓ちゃん大丈夫かしら・・・」

トイレ前

梓「(うう)・・・やっぱり怖い・・・でも戻ったらまた律先輩に
バカにされそうだし・・・」

梓「(ここは勇気を出して・・・)行ってやるですう!!」バターン

ジャアアアア

梓「ふう～さすがにトイレの中には来ないよね・・・さすがに
先生もそんなことは・・・」ギイイ

鬼(顔面パイ)×3登場 ババーン

梓「・・・・・・・・・・・・・・・・!!ひえっ!!」

罰執行

鬼(顔面パイ)×3 ベチャツベチャツベチャツ スタコラサツ

梓「うぷぶう・・・・・・・・・・・・・・・・」ベチャア

梓「・・・・・・・・・・・・・・・・ふっ・・・・・・・・ふふ・・・・・・・・ふひひひ・・・・・・・・ふええええ・・・・・・・・・・・・・・・・ん／＼／＼」ビエーン

梓「ふえええん！せんぱあ・・・・・・・・い」ビエーン

唯「わあ！あずにゃん!?!」

漣「ひええっ！どうしたんだ!?!?何だその顔はっ!?!」

律「やられたのかっ!?!?」

紬「梓ちゃん！大丈夫!?!」

梓「グスッ・・・・・・・・ヒック・・・・・・・・はい」

唯「あずにゃん可哀想」ダキッ

律「ほらっこれで顔拭け」

梓「ありがとう・・・・・・・・ございます・・・・・・・・」グスッグスッ　フキフキ

紬「ひどいことするわね・・・・・・・・」

漣「ひいひい・・・・・・・・」ブルブル

モニタールーム

さわこ「うふふふ・・・・・・・・これでトイレも油断出来ないってことがわかったわね・・・・・・・・」

純「うわあ・・・・・・・・梓ったら顔がパイまみれじゃん」

刺客3号「梓ちゃん・・・・・・・・」

さわこ「ふふふっさあ刺客3号！次はあなたの出番よ！！」

刺客3号「……はい」

PM14:30

唯「あずにゃん、少しは落ち着いた？」

梓「はいっ……もう平気です」

律「しっかし……これでオチオチトイレも行けないって事がわかったな」

紬「もろどこから鬼が現れてもおかしくないわね」

漣「ひいっム……ムギ！怖いこと言っなよっ」ブルブル

律「漣！そんなに怖がってる……背後からいきなり！！」ガバッ

漣「はひゃあああああ！！！」

律「なんてな」

漣「……！このっ……驚かすなっ！！」パコーン

律「いてっ……もろ軽い冗談じゃないかノノ」プクー

ブシューウウー—— 鬼（ディープリクス）登場

唯「わわっ！りっちゃん冗談じゃなくなっただよっ」

律「タイミングいいなっ」

漣「このバカ律！！！」

紬「早く逃げましょっ」

梓「もー連続は嫌ですう！」

鬼（ディープキス）タッタッタッタッ

梓「ええ〜！！またわたし〜！？」

唯「あずにゃん気の毒・・・」

鬼（ディープキス）ダダダダ ガシッ

梓「にゃああああ！もういや〜！！！」

罰執行

律「おい・・・ディープキスって」

漣「まさか鬼と・・・」

紬「梓ちゃん、今日は厄日ね」

唯「ああ〜あずにゃん・・・はじめてかもしれないの〜」

梓「にゃあああああ！やめてえ！！！」

ブシューウウー—— キスプレゼンター登場

刺客3号「梓ちゃん！」

梓「へっ………!? 憂っ?」キョトン

唯「ええっ!? 憂なの!？」

透「まさかキスするのって……」

律「憂ちゃん……!？」

紬「(はああああ! いいわ)」ボンッ

憂「梓ちゃん……こんなにパイにまみれてかわいそう……」ジ
リジリ

梓「ちよっ……近いつて!」

憂「私が慰めてあげるね!」ガバッ

梓「にやあっ! ちよっと……憂!」

憂「梓ちゃん……」ジー

梓「う……憂、なににする……ん〜! ん〜ちゅっ……はむっん
ん〜むちゅ」

憂「はあっちゅる……はむ……ちゅっ……はあはあ」

梓「ん〜っ……憂! ちゅう……ちよ……まっ……はあっ」

憂「ぷはあっ……顔についたパイも……綺麗にしてあげるねっ
!」ペロペロペロ

梓「にゃはあっ．．．ちよっと．．．にゃっ．．．憂」

唯「あずにゃんうらやましい」

漣「これ．．．罰だよな．．．」

律「そうには見えねえ．．．」

紬「（カメラは何処っ！！？ボイスレコーダーはっ！！？ああんこんな状況なのに）」

憂「ペロペロ．．．はいつ！梓ちゃん綺麗になつたよ！」

梓「．．．．．／／．．．．．」カアアア

憂「じゃあみなさん私はこれで、お姉ちゃん頑張つてね！」

唯「うっうん．．．バイバイ」

漣「じゃあ．．．」

律「またな憂ちゃん」

紬「また来てね」

憂「梓ちゃんもバイバイ」スタコラサッ

梓「．．．．．／／」

PM15:00

梓「．．．．．」ポケー

唯（ねえねえさつきからあずにゃん一言も喋らないよ．．．）ヒソヒソ

漣（無理も無いだろ．．．）ヒソヒソ

鬼（恐怖体験）ダツダツダツダツダ

律「漣！捕まれよ！」ダツダツダ

漣「何でだよー！」

律「恐怖体験なら漣にぴったりじゃないか！」

漣「絶対に嫌あー！ー！ー！」

鬼（恐怖体験）ダツダツダダダダダ ガシッ

漣「ひい！なんで私なんだよー！」ジタバタ

紬「結局漣ちゃんだったわね」ハアハア

律「ふうー！ー助かった．．．」

罰執行 ブシューウウー！ー 罰プレゼンター登場

貞子 伽椰子 トイレの花子さん 口裂け女 ジェイソン フレデ

イ チャッキーの変装をした桜ヶ丘高校陸上部の生徒達に追い掛け
回される。

漣「ぎゃあああああああああ！ー！ー！ー！」

鬼達「マテー！ー」「ミオチャアアアン」「アイキルユーー！ー！
ー！ー！ー！ー！ー！ー！

唯「うわあなんか凄いね」

さわこ「何言ってるのよ、これが何かわからない!？」

一同の目の前にはティーセットとケーキとクッキーが置かれた。

律「うはあ!おやつじゃん!」

紬「紅茶もあるわ」

梓「やつとまともなことをしてくれましたね」

さわこ「甘いものでも食べて元気出さない、まだまだこのゲームは終わらないんだから!」スタコラサッ

漣「相変わらず帰るのは早いな」

唯「やったーおやつ おやつ」

紬「ふふっ唯ちゃん嬉しそう、私は紅茶を淹れるわね」

律「サンキュームギ!早く食べようぜ!」

梓「律先輩、子供みたいですね」

PM16:10 ティータイム

紬「紅茶が入ったわよ」

唯「ありがとうムギちゃん」

漣「はあ... やつと少しは落ち着けるな」

律「イチゴショートもーらい」バツ

梓「あつ!ずるいですよ律先輩!」

律「早い者勝ちだあ!」

漣「こらっ律!」

紬「まあまあまあ」クスクス

唯「私、レアチーズタルト」バツ

澪「あつ！唯まで」

梓「まったく子供ですね．．．私はバナナケーキを」

澪「私はフルーツタルトを」

紬「残ったモンブランは私ね」

一同「「「「「いただきまー．．．」」」」」

ブシュウウウー！ー 鬼？（虫食い）登場

澪「ひいつ！」

律「なんだよチクショウ！」

唯「あゝんケーキ」

紬「おあずけねっ」

梓「早くにげっ．．．あれ!？」

鬼純「こんにちわー！ー！！早速ですけどケーキは頂きます！」ダ
ダダダダダ

一同「「「「「えっ!？」」」」」

鬼純「このレアチーズおいし〜」「イチゴシヨートも最高！イチゴ
うまつ！」「私モンブランは栗しか食べれない〜」「フルーツタル
トのフルーツ全部いただき！」「バナナケーキのバナナも全部もー
らいつ！」「バクバクバクバクバク「おっと！クッキーも忘れずに」
「全部はいいからこれも一口ずつ」バクバクバク「のど渴いた、紅
茶もいただきっ！」「みんなの紅茶を一口ずつ．．．」「あちちっ」

梓「度々私の友人がすいません．．．」ペコペコ

唯「でもっ．．．まだ食べられる！」グスッ

漣「よせよ！みつともないぞ！」

律「てっぺんのイチゴが無くても．．．ケーキには変わらない！」
ハアハア

紬「りっちゃんまで．．．」

梓「2人ともやめてください！」

唯律「それでも私は食うっ！！」「パクッ

漣「ああ！まったく．．．」

紬「唯ちゃん．．．りっちゃん．．．」

梓「はあ」

唯律「．．．」モグモグ

漣紬梓「．．．」ジ

唯「うっ．．．ひっく．．．えぐっ」グズッ

律「うっ．．．ぐずっ」ヒック

漣「．．．！．．．今度はどうしたんだ？」

紬「どうしたの!？」

梓「大丈夫ですか？」

唯律「むなし／＼／」「ビエーン

PM 17:00

PM 17:00

一同「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「」

ポンポンポンポン

一同「「「「「「「「「「「「「「」

さわこ「やつほー」

律「なんのよう？」ハア

唯「おやつかえして」ズルズル

さわこ「ごめんね、ちょっとやり過ぎたわ」

梓「純は帰らせてください」

さわこ「ダメよ！純ちゃんは大事な罰のプレゼンターですもの。それに暇だと思ってテレビゲームを持ってきてあげたのよ！」

律「今時ゲームキューブかよ」ハア

漣「先生・・・もうやめましょう。辛過ぎます」

紬「そうね、さすがに疲れたわ・・・」

さわこ「何言ってるのよ！「褒美はなくていいの!」?」

澁「いりません」

紬「私もです」

唯「もういいよ」

律「最初っから期待はしてないけど・・・」

梓「帰りたいです」

さわこ「ふん．．．そっかあ．．．残念ねえ」

一同「くくくく（やった！帰れる！）」「」「」

さわこ『ホテル桜ヶ丘 一流シェフが作るデザートバイキング 1
年間食べ放題チケット』ピラピラ

唯「！！！」

さわこ『ポール・マッカートニー愛用ベース』ジャーン

澁「！！！」

さわこ『キース・ムーン愛用ドラムスティック』クルクル

律「！！！」

さわこ『桜ヶ丘高校の生徒達のマル秘百合画像データ』ピッ

紬「！！！」

さわこ『絶対に日焼け出来ないスペシャル日焼け止め1年分』バツ

モニタールーム

さわこ「上手くいったわ」

純「さすがです先生！」

憂「いいんですか！？あんなこと言ってしまったって・・・」

和「あんなご褒美用意出来るんですか？」

さわこ「うふふ・・・大丈夫よ！」

憂和「」（怪しい・・・）「」

PM17:30

HTTはさわこの持ってきたゲームキューブをやっていた（ちなみにソフトはスマブラ）。

唯「えいつピカチュウのかみなり！」ゴロゴロピツシャーン

漣「負けるなサムス！ミサイル発射！」バシユツバシユツ

律「私のフォックスには誰も勝てないぜ！」シユツ

紬「ドンキーちゃん頑張ってる！」ドコンドコンドコソ

梓「みんな頑張ってください！」

ブシユウウウー！ー 鬼（一発ギャグ）登場

漣「うわっ!」

唯「みんな逃げるよ!」

紬「勝負はおあずけね」

鬼（一発ギャグ）ダッダッダッダ

律「ええー!わたし!?!」

鬼（一発ギャグ）ダダダ キャッチ

律「もお〜!」

梓「よかったあ．．．」ハアハア

罰執行

律「一発ギャグ!?ん〜．．．」ウーン

唯「りつちゃん何するんだろ」ワクワク

漣「期待は出来ないな」

紬「でも楽しみね」

梓「大丈夫ですかね!?!」

律「(うゝ) ころなったらやぶれかぶれだ！」

律はカチューシャを外し前髪を下ろし顔の左半分を隠した。

律「父さん、悪い妖気を感じます(声マネ)」「チーン

唯「(うわぁ)」

漣「(最悪)」

紬「(何の真似かしら?)」

梓「(鬼太郎似てないし)」

律「はぁ」ガックシ

PM 18:00

唯「えいえいつ」「ピロピロ」

律「あつくソツ!」「ドーン

紬「りっちゃん脱落!」「ピロピロ」

梓「何気に唯先輩強いですね」「ピロピロ」

漣「よしっ!次は私の番だ!」

モニタールーム

さわこ「あの子達すっかりゲームに夢中ね」

刺客4号「なにやってんだか・・・」

刺客5号「子供ね・・・」

刺客6号「先生、そろそろ行きますか!?!」

さわこ「そうね、あなた達が行って眼を覚まさせてきなさい!」

ブシュウウウー—— 鬼? (ヒント)
鬼? (ヒント) 鬼? — 鬼? (ヒント)
登場

唯「うわあ! いっぺんに3人も!」

漣「つーかあれって・・・」

律「ああ・・・またうちのクラスメイトだ」

紬「まあ」

梓「私は知りません」

鬼姫子「ゆいー! みんなー! 元気い!?!」

鬼いちご「・・・」

鬼信代「元気かあ!?!」

唯「姫ちゃん！いちごちゃん！信代ちゃん！」

漣「もう嫌だ．．．」

律「一体何人のクラスメイトを巻き込んでんだよさわちゃんは！」

紬「（あの3人もアリね．．．1人は別として）」

梓「て言うか．．．早く逃げましょう！」ダダッ

鬼姫子「みんな悪く思わないでね！」ダッダッダッダ

鬼いちご「めんどくさい」タッタッタ

鬼信代「いくぞお！！」ドドドドドドッ

唯「ひえっ！」

漣「ビンタはもういやっ！！」

律「信代のビンタは嫌だっ！」

紬「（あえて捕まるのも．．．）」ウーン

梓「ムギ先輩！逃げるんですよ！！」

鬼姫子「そーら捕まえた！」ダッダッダ ガシッ

唯「ふええ〜姫ちゃん．．．」

鬼いちご「捕まえた」キャッチ

漣「ひっ！い．．．いつの間に!？」

鬼信代「逃がさないよ！！」ドドドドドド ガシィ

律「もう最悪！」

罰執行

鬼姫子「ごめんね唯」バチーン

唯「いったあゝい！」

鬼いちご「覚悟」ペチッ

漣「(ええつ・・・！？)」キョトン

鬼信代「律！気合入れろお！！」バチコーン

律「ぶへえ！」

鬼姫子「任務完了！じゃあね！」タッタッタ

鬼いちご「じゃあ・・・」スタスタスタ

鬼信代「みんなー！頑張れよー！！」ドストドス

唯「いたた・・・姫ちゃん強いよ」ヒリヒリ

漣「(いちごで良かった・・・)」ハア

律「頭がクラクラする・・・」ズキズキ

紬「りっちゃん大丈夫!？」
梓「ピントを超えて掌底でしたね」

PM18:30

PM18:30

唯「スマブラも飽きたね〜」

漣「そうだな」

律「でも他にすることがない」

紬「じゃあみんなで他のこととして遊びましょ」

梓「何するんですか？」

紬「う〜ん．．．鬼ごっこは!？」

律「ムギ．．．それは今やってる」

紬「じゃあ．．．かくれんぼ!」

梓「勝手に体育館から出たらダメなんじゃないですか？」

紬「そうね．．．じゃあ怖い話大会!」

唯「おお〜賛成!」ビシッ

漣「絶っつっ対ヤダ!」

紬「ええ〜じゃあ何しましょう?」ウーン

律「しばらく休もうぜ」ゴロン

梓「そうですね」クター

漣「私もそれに賛成」ゴロン

唯「ムギちゃん、今のうちに一緒にトイレ行かない?」

紬「そうね、一緒に行きましょ」

唯 紬 スタスタスタスタ

律「あいつら大丈夫か?」

漣「心配ないだろ」

梓「さすがに2回はないと思いますよ」

漣「ううなんで私ばかり．．．」

律「お化けに好かれてんだよ〜漣ちゃんは怖がりでちゅからねえ」
ケラケラ

漣「うるさいっ！」ポカッ

律「いてて」プクー

唯「わっ！大きなタンコブ！」

紬「うふふ．．．りっちゃん可愛いノノ」

梓「マンガみたいなたんこぶですね」チョン

律「いつてえー！！！」

梓「わっごめんなさい！」

律「こんのお〜お返しだあ！」グリグリ

梓「痛い痛い！許してくださいーい」

ブシューウウー――

一同「「「「「わあああ！」「」「」

？「待つて待つて！」

？「鬼じゃないってば！」

唯「あれっエリちゃんとアカネちゃん！？」

漣「普通の格好だな．．．」

エリ「お疲れ〜みんな頑張ってる？」

律「どうしたんだよ2人とも」

アカネ「さわこ先生に頼まれて陣中見舞いに来たってわけ」

紬「まあありがとう／＼」

エリ「いいっていいって、友達でしょ」

アカネ「あらっ！？あなたが梓ちゃん？」

梓「へっ！？あっ．．．はい！」

エリ「わあ〜可愛い！唯の言ってた通りだ」ダキッ ギュー

梓「にやああ！？ちょ．．．ちょっと！」

アカネ「『にやああ』だって 可愛い〜！！」ガバッ

梓「くっ．．．苦しいですう〜」ギユウウウ

澪「おいおい．．．2人ともその辺にしとけ」ヤレヤレ

唯「あずにゃんが苦しがつてるよお〜」アセアセ

エリ「あっごめんね！」バツ

アカネ「可愛かったからつい．．．」テへへ

律「まったく．．．ところでその袋は何？」

エリ「あっ！忘れるとこだった」ガサガサ

紬「何なの？」

エリ「はいっ差し入れのコーラ」

アカネ「こっちはお菓子！」

唯「わああくありがと〜／＼」

漣「やっとまともな人達が来てくれた・・・」

律「全くだぜ！2人ともサイコー！」

紬「本当に感謝するわ／＼」ニコニコ

梓「あっ・・・ありがとございます」モジモジ

エリ「喜んで貰えて嬉しいよ！」

アカネ「みんな頑張ってね！」

唯「せっかくだからゆっくりしてっよ〜」

漣「何も無いけど歓迎するよ！」

エリ「う〜ん・・・そうしたいんだけど〜」

律「都合が悪いのか？」

アカネ「さわこ先生から差し入れ渡したらすぐに戻れって言われてるのよ〜」

紬「そう・・・残念だわ・・・」

エリ「ごめんね、でも私達はいつでもあなた達の味方よ！友達も
んっ！！」

アカネ「そうそう。勿論、梓ちゃんの味方でもあるわよ」

梓「~~~~／＼」カアア

エリ&アカネ「じゃあ私達はこれで」

唯「ホントにありがとう〜！」

漣「また遊びに来てね！」

律「ゲームもあるしいつでも来いよ〜」

紬「大歓迎するわ〜！」

梓「まつ・・・また来て下さいね・・・」モジモジ

エリ&アカネ「バイバイ」スタスタスタ

PM19:30

ポンポンポンポン

さわこ「ヤッホー~~~~」

一同「~~~~」

さわこ「さすがにこの音には慣れたようね」

唯「もう10時間くらいやってるよ」「グデー

漣「私でも慣れますよ」

律「今度は何の用？」

さわこ「夕食の時間よ」

紬「えっ？先生、手ぶらですけど？」
梓「ごはんは何処にあるんですか？」

さわこ「慌てないの！ちゃんとあるから。ちなみに夕食は憂ちゃんや純ちゃん達が作ってくれたわ」

唯「えっ！？憂達が！？」バツ

さわこ「そうよ、他にも和ちゃん、姫子ちゃん、いちごちゃん、信代ちゃん、エリちゃん、アカネちゃん、みんな頑張って作ってくれたの」

唯「さわちゃんは？」

さわこ「私は作らないわよ、あなた達の監視で忙しいもの」

律「生徒に任せつきりじゃん・・・」

さわこ「じゃあお願いしまーす！」

ブシューウウウー――

一同「」「」「」「うわああああ！」「」「」「ダダッ

律「(さわちゃん何考えてんだよ!!)」

校長「さあさあ夕食をどうぞ、はい秋山さん。あなたの歌詞は私も好きですよ」スツ

漣「どつど、どうもです!」ブルブル

校長「えつと・・・はいっこれは平沢さんに。歌お上手ですね」スツ

唯「へっへいっ!ありがとうございます!」ブルブル

校長「はははっ・・・はいっ琴吹さん。実はあなたのファンなんです」スツ

紬「えっ!あっ・・・ありがとうございますノノ」ペコペコ

校長「はいっ中野さん。可愛らしい方ですね」スツ

梓「にやっ!?!あっ・・・ありがとうございます!」ペコペコ

校長「はいっ田井中さんの分です。いつも元気一杯ですね」

律「えっ!?!あっ・・・どうも・・・」

校長「そんな田井中さんには私からのプレゼントを用意しています」

律「ええっ!?!?」

校長「些細ですが手紙を書いてきました。今読んでみて下さい」スツ

律「えっ！？あつ・・・ありがとうございます！」ガサガサ

唯「りっちゃんいいなあ」

澪「（なんで律だけなんだ・・・）」

紬「（校長先生・・・私のファンなんだ／＼）」カア

梓「（可愛いって・・・）」ポー

律「へへっいいだろ。えーっと・・・何々・・・『お尻・・・吹き矢』？」

校長「そうです。お許し下さい」ガシッ

律「えっ？」

ブシュウウー・・・ 補充要員1名登場、律を四つん這いにさせる

罰執行

校長「覚悟して下さい」スッ

校長が吹き矢を構える

律「ちよちよちよちよ！えっ！？どづいう・・・」

フッ プスッ

律「あいだあー！ー！ー！！！」

校長「任務完了、では私はこれで。みなさん頑張ってください」スタスタ

唯 澪 紬 梓「……」(まさかの裏切り……)「……」

律「いだいよお」グスツ

PM 19:40 夕食タイム

唯「おいし〜ノノ」モグモグ

澪「憂ちゃん達には本当に感謝だな」パクパク

律「最後のが無きゃな……」ハア

紬「りっちゃん、あまり考え込んじゃ駄目よ」

梓「そうですね、今は憂達に素直に感謝すべきですよ」モグモグ

律「それもそうか……」パク

唯「りっちゃん……そうだ！私のから揚げ1つあげる」ヒョイ

律「ええっ！？そんなの悪いよ唯」

唯「いいんだよ、私はりっちゃんに元気になって欲しいから！」フンス

律「うう……ありがと唯」

澪「ほらっ！元気出せ。私からもこの卵焼きやるよ」ヒョイ

紬「はい、私からはエビフライを」ヒョイ

梓「仕方ないですね……私のミニハンバーグも食べてください」ヒョイ

律「みんな．．．うっ．．．ひつく、グス．．．ありがとうなあ！
！」ガツガツガツ

唯「りっちゃん元気になったね！」

漣「大泣きして食べてるけどな」

紬「ふふっよかったわ、いつものりっちゃんになってくれて」「ニコニコ

梓「でももう少し落ち着いて欲しいですね」「アハハ

律「ひつく．．．あゝ美味しいよあゝ」ポロポロ

PM 21:00

PM 21:00

唯「ようやく半分だね」

漣「ああ．．．でもまだ半分かあ」ハア

律「ここまで来たんだ、後は気合で頑張ろうぜ！」フンス

紬「ふふっそうね、りっちゃん」

梓「それにしても鬼が来ませんね」

律「そうだなあ、最後にやられたのは私で1時間半前くらいか？」

唯「そうだよな。何してるんだろ？」

漣「来ないなら来ないでいいじゃないか」

紬「でもまた先生が何か企んでるのかも．．．」

ブシューウウウー

唯「わあ！」

漣「言ってるそばからっ！．．．ってあれ？」

さわこ「やっほー」

律「なんだよもう！！」

紬「登場の仕方が変わったのかしら？」

梓「来るなら今まで通りでいいじゃないですかっ!」「プンブン

さわこ「だってあなた達もうあの出離子に慣れちゃってつまんないもんっ!」

漣「普通に来ればいいじゃないですか．．．」「アキレ
律「で、何のよう?」

さわこ「冷たいわねえ〜せっかく暇だろうと思って映画を見せてあげようと思ったのに」

唯「えっ!? 映画見せてくれるのっ?」「キラキラ
梓「唯先輩嬉しそう．．．」「ハア

さわこ「そうよ唯ちゃん、『呪怨』と『プレデターズ吹き替え版』があるんだけど．．．みんなどっちが見たい?」

紬「え〜迷うわねえ．．．」「ウーン
律「よし!ここは『呪お 漣』絶対っつっ対にヤダ!!!!!」

唯「わわっ!びっくりしたあ〜」「ドキドキ
漣「プレデターズでお願いします!」「ビシッ
梓「独断ですね．．．」

さわこ「わっわかったわ．．．ちょっと待っててねっ」「スタコラサッ

21:30 映画上映

『プレデターズ』 デーイン

唯「おおっ始まったよ」

紬「見たこと無いから楽しみだわ」

梓「私もです」

律「私はシリーズ1作目は見たなあ〜普通に人が殺されるシーン満載だけど・・・」

漣「ひっ・・・嫌なこと言うなよ!」ブルブル

ロイス(傭兵 武器：フルオートショットガン) 『うわああああああああ』 落下中

唯「いきなり空から落ちてる」

律「なんだあ!?!」

紬「早くパラシュートを開くのよ!」

梓「ムギ先輩、静かにして下さい」

漣「(もうこの時点で嫌な予感が・・・)」

ロイス『ふう・・・助かった』

ガサガサ バツ

クッチーロ(マフィア 武器：マシンガン2丁) 『誰だてめえ!ぶつ殺すぞ!』

カチャツ ロイスがマシンガン向けられる

唯「うわっ怖そうな人が・・・」

律「ダニー・トレホじゃん」

紬「誰なの?」

梓「有名な悪役俳優ですよ」

漣「(怖いなくこの人・・・)」ビクビク

ニコライ(スペツナズ 武器：ミニガン) 『俺はニコライだ』

イザベル（スナイパー） 武器：スナイパーライフル）『あんた達何者？』

ハンゾー（ヤクザ） 武器：ハンドガン）『．．．．．』

スタンズ（死刑囚） 武器：ナイフ）『なんだってんだ！チキシヨウ！』

モンバサ（RUF） 武器：アサルトライフル）『ここは何処なんだ？』

エドウィン（医師） 武器：医療用メス）『どうして僕はこんな所に！？』

唯『色んな人達が出てきたね』

律『日本人いるし』

紬『知ってる人がいないわ．．．』

梓『そんなお金もかけてなさそうですね』

漣『あのメガネの人はいい人そうだな』

ロイス『．．．．．』ドンドンドンドンドン

イザベル『くっ．．．』バン カシャツ バン カシャツ バン

エドウィン『たすけてえ』

ハンゾー『．．．．．』バンバンバンバン

スタンズ『おい！誰か銃くれよ！』

ニコライ『うおおおおおおお！』バラバラバラバラ

モンバサ『チツ．．．．．』バラバラバラ

クッチーロ『クソ犬め！』パラパラパラ

プレデター犬の襲撃を受け、一斉射撃を開始する

唯『うわあ凄いね』

律『てか、犬強っ！』

紬『（可愛い．．．ワンちゃんねえ）』ポ

梓「弾の無駄遣いじゃないですか」

漣「(ひいひい．．．犬コワイ犬コワイ)」ブルブル

クツチー口の死体を見つける

律「ダニー・トレホがここで死ぬとは．．．」

モンバサ「ぐわあっ！」グサツ ドシユツ

ロイス「走れー！ー！ー！」ドンドンドン

モンバサが罾に掛かり串刺しになる

唯「ひえっ！また死んじゃった」ビクツ

律「エグイなあ．．．」

漣「ひいひい．．．」ガタガタ

ノーランド(元空軍 武器：プラズマライフル)「声が大きいぞ．．．」

」

ロイス「貴様何者だ？」

この星で10年間戦い続けているノーランドが現れた

紬「新キャラの登場ね」

梓「ここへ来てののですか!？」

漣「(あっ．．．モーフイアスの人だ)」

ノーランド「奴らは2つのタイプに別れている．．．なあそうだと

!？」

シーン

律「こいつ頭がおかしいのか？」

唯「誰もいないところに喋ってるね」

ノーランド『ああ．．．畜生』 バシユン プシャアアアア

梓「死んじゃいましたね．．．」

ニコライ『地獄へ落ちろ！』ピッ ドゴオオオオオオオオン
ニコライ、自爆でドッグ・ハンドラープレデターを道連れにする

紬「自爆して一体を道連れに．．．」

唯「ニコライさんいい人．．．」グスツ

梓「自分の身を犠牲にしてまで．．．ご立派です！」ジーン

ロイス『くそっ』

ロイス、バーサーカープレデターに襲われ、額にプラズマライフルの照準が合わせられる

唯「ああっ主人公っぽい人が．．．」

スタンス『このクソ野郎！俺が相手だ！！行けっ今のうちに逃げる！』バツ ドシュツドシュツ

スタンス、バーサーカープレデターに飛び掛りナイフで切りつける

律「ここへ来てこいつがヒーローに！？」

スタンス『へへっ．．．やれよ！殺せ！！』 グシャツ ベキベキ
ベキズルン

梓「ひい！」

紬「酷い．．．」

漣 ブクブクブクブク

唯「澪ちゃん、気絶してるよ．．．」

ハンゾー『うおりゃあ！』キンキン

ファルコナープレデター『グルルルル』カキン キン

ハンゾー、ファルコナープレデターとの一騎打ちに挑む

律「（頑張れ！いけえ！！）」

ハンゾー『ぐふっ』ドサッ

ファルコナープレデター『グウウ』ドサッ

刀同士の死闘の末、相討ちとなり、両者とも地面に沈む。

唯「格好いい．．．」

律「日本人の誇りだな」

紬「グスツ感動．．．しました．．．」

梓「正々堂々戦うプレデターも素敵です」

澪「（はっ！．．．また気絶してた．．．）」

エドウィン『ぎゃあああ！あっ．．．足があ．．．』

エドウィン、プレデターの仕掛けた罠に掛かり、足を負傷する

律「もお〜こいつは足手まといだなあ」

唯「りっちゃん、言い過ぎだよ」

ロイス『彼は置いていこう』

イザベル『本気で言ってるの？』

ロイス、エドウィンを見捨て、一人で脱出用宇宙船の場所へ走る

梓「この人本当に主人公ですかね．．．」

紬「仕方が無いわよ．．．」

漣「（気絶してたから何がなんだかわからない．．．）」

ロイス『開放してやるから俺を地球へ帰してくれ』

クラシックプレデター『．．．．．』

ロイス、磔にされていたクラシックプレデターを開放し、宇宙船を手に入れる

唯「言葉通じるの？」

律「こう言う場合なんとかなるんだな」

バーサーカープレデター『グオオオオオオ』ドガツバキツ

クラシックプレデター『グルルル』ドコンバキツ

バーサーカープレデターに見つかりプレデター同士の決闘が始まる

唯「なんか戦ってるよ」

梓「どっち応援すべきですかね？」

紬「クラシックさんじゃない？」

漣「（どっちも怖い．．．）」ブルブル

バーサーカープレデター『グオオオオオオ！』バシユツ

バーサーカー、クラシックの首を跳ね勝利する

唯「あゝあ負けちゃった．．．」

エドウィン『僕の正体がわかったかい？そう殺人鬼さ．．．』

イザベル『なんで．．．』

エドウィン、本性をさらけ出しイザベルを神経毒で麻痺させる

律「マジでか．．．」

紬「怪しいとは思ってたけど．．．」

梓「サイテーですね」

唯「悪い人だったのか」

漣「(まさかの裏切り．．．)」「アゼン

ロイス『．．．』「ザッ

エドウィン『生きてたのか!?良かった、助けて!』

イザベル『!』「ガクガク

ロイスは生きており、穴の中に落ちている2人を助ける

唯「リーダー生きてた!?!」

律「まさかまさかの展開!」

紬「やっぱりあの人が主人公ね」

梓「いい人じゃないですか」

漣「(よかった．．．)」「ホッ

>改ページ<

ロイス『俺はそんなに優しくもないぞ．．．』「グサッ

エドウィン『ぎひい!』「ガクガク

ロイス、エドウィンに襲われるも、返り討ちにする

唯「天罰だね」

律「いい気味だ!」

紬「でも痛そう．．．」

梓「そりゃあメスを首から頭に向かって突き刺しましたもんね．．．

」

漣「あ．．．ああ」ガクツ ブクブクブク

ロイス『俺はここにいるぞ!来い!』

バーサーカー『ゲルル』

ロイス、バーサーカーを罫にはめ、周りを炎で囲う

唯「おおっ最終決着っばい」

ロイス「おらあ！」ガン　ゴン　ギン　ドゴン
バーサーカー「グガア　グフ　ガアア　ギイイ」
バーサーカー、炎で視界が攪乱されているところを斧で集中攻撃される

唯「なんか卑怯じゃない？」

律「いやいい戦法だよ」

紬「斧しか持ってないのかしら」

梓「でも効いてますよ」

漣　ブクブクブク

バーサーカー「グルルルル」キュイン　バシユン

ロイス「ああ畜生！」バツ

ロイス、バーサーカーに見つかり、プラズマキャノン撃たれるも、
間一髪で避ける

紬「形勢逆転ね」

律「なんかヤバそう」

バーサーカー「グオオオオオ」ドガッ　バギッ

ロイス「ぐはあ．．．」

バーサーカー、怒りのままにロイスを殴打する

唯「ボコボコにされてるよ．．．」

律「そりゃあ怒るわな」

イザベル「このっ．．．！」バキユン

バーサーカー「グフウ」

イザベル、麻痺から開放され、バーサーカーを狙撃する

紬「すっかり存在を忘れてたわ」
梓「てか生きてたんですね」

ロイス「うえああああ!!」ガス グシャ バシユ
バーサーカー「グウ!ギイ!ギアア」
ロイス、隙を突き斧でバーサーカーを滅多切りにして、首を刎ねる

唯「あゝあゝやり過ぎじゃない?」

梓「ちよつと惨いですね」

律「これで決着か!」

紬「なんか地味な終わり方ね・・・」

漣「(はっ・・・えっ終わってる!?)」

THE END デーデン

バリバリバリイ スクリーンを破ってプレデター鬼登場^{ヒント}

唯「ひえっ!びっくりしたあ!」

漣「えっ?えっ?ええええ!」

律「そんなんあり!」

紬「もおゝいやっ!」

梓「早く逃げるですう!!」ダダッ

プレデター鬼(ヒント) ダダダダダ

唯「ひええええ!」

律「唯が狙われてるぞ!」

プレデター鬼（ビンタ）　ダッダッダッダ　ガシッ

唯「ひいいい．．．こわい〜」ガタガタ

罰執行

プレデター鬼（ビンタ）　ハアアアア　バツチーン

唯「いたあい！」

クイズタイム

ブシューウウウー

漣「わあっ！また出た!？」

さわこ「やつほー」

律「さわちゃん．．．来るなら普通に来てよ．．．」

さわこ「だってあの出離子じゃみんな驚かないもの」

梓「なぜ私達を驚かす必要があるんですか．．．」ハア

さわこ「まあまあいいじゃない、ところで今何時かしら？」

紬「夜の11時ですけど．．．」

さわこ「そろそろみんな眠たいんじゃない？」

唯「眠いよ」

漣「疲労がピークです．．．」
律「もう寝させて」

紬「確かに疲れました．．．」
梓「私もさすがに寝たいです」

さわこ「そう言うと思ったわ、ではここで．．．」ガサゴン

律「名前が出てこない．．．」

紬「見たことはあるんだけどねえ」

梓「うん．．．！ハイっ！！」バツ

さわこ「はい梓ちゃん！」

梓「エイリアン・ブロディ！」

さわこ「ブツブツ残念！おいしい！」

梓「あちゃ〜」

律「あっ思い出した！！」バツ

さわこ「はいりっちゃん！」

律「エイドリアン・ブロディ！」

さわこ「ピンポーン大正解！！」

律「よっしゃあ！」ガッツ

唯「おお〜りっちゃんすご〜い」パチパチ

漣「あ〜そうだったあ〜」

紬「梓ちゃんナイスフォローね」

梓「うう．．．悔しいです．．．」シクシク

さわこ「りっちゃんが1抜けてことね。じゃあ続けて二問目いくわよ〜！」

唯「よしっ次こそは！」フンス

さわこ「第二問！物語中最初の犠牲者であるクッチーロを・・・」

漣「はいっ！！」ビシッ

さわこ「はいっ漣ちゃん！」

漣「ダニー・トレホ！」フンス

さわこ「ブツブー不正解！」

漣「えっ！？どうして正解じゃ・・・」

さわこ「問題を良く聞いて！クッチーロを演じているのはダニー・トレホですが・・・作中で彼が使っていた武器の正式名称は！？」

漣「ひっかけ・・・」ガックシ

唯「漣ちゃん残念だね」

梓「てか、そんなのわからないですよ！！」

紬「はい！」ビシッ

さわこ「はいっムギちゃん！」

紬「Hecklar&Koch MP5Kです」

さわこ「ピンポン大正解！」

紬「うふふ・・・やったわ」

唯「ムギちゃん・・・」

漣「スゴイ・・・」

梓「なんで知ってるんですか・・・？」

さわこ「ムギちゃんおめでとう！さぁどんどんいくわよ」

唯「よし次こそは！」

さわこ「第三問！この作品に出てきたプレデターの種類は・・・」

梓「はいっ！」「ビシッ」

さわこ「はいっ梓ちゃん！」

漣「（梓のヤツやつちやつたな・・・）」「ククク

唯「（絶対引ッ掛けじゃん）」「ヒヒヒ

梓「4種類です！」

さわこ「ピンポン大正解！問題の続きはプレデターの種類は何種類か？正解は4種類ね」

唯漣「・・・」」「ポカン

梓「お先です」

さわこ「さぁ最後の問題よ！2人共頑張って！」

唯漣「」（絶対に勝っ！）」「」

さわこ「最終問題！この映画は・・・」

唯 漣「ゴクッ・・・」

さわこ「何時から上映された!？」

唯「えっ!？」

漣「ちよつと待つてください!内容じゃないんですか!？」

さわこ「さあさあ!何してるの!早く答えなきゃ!」

漣「そんなあ・・・えーつと確か・・・」

唯「はいっつ!」ビシッ

さわこ「はいっ唯ちゃん!」

唯「えーつと・・・9時・・・9時・・・ウーン

漣「(唯!頼む!!間違えてくれ!)」

さわこ「唯ちゃんはっきり言いなさい!」

唯「はい!えーつと・・・21時30分です!」フンス

さわこ「大正解!!おめでとう唯ちゃん!」

唯「やったー!」

漣「あゝそんな．．．」ガツクシ

さわこ「じゃあ選ぶ順番はりっちゃん、ムギちゃん、梓ちゃん、唯ちゃん、漣ちゃんの順番ね」

律「よっしやあー！」

紬「嬉しいわ」

梓「まあまあってところですな」

唯「ドベじゃないだけいいか」

漣「嫌な予感しかない．．．」

さわこ「それじゃあお願いしまーす！」

さわこの合図とともにお姫様ベッド、普通のベッド、普通の布団、ハンモック、寝袋が運ばれてきた

さわこ「まずはりっちゃん！この中から好きなものを選んでね」

律「当然．．．お姫様ベッドだ！」

さわこ「はい、じゃあ次はムギちゃん」

紬「そうねえ．．．じゃあお布団で」

さわこ「あらベッドじゃなくていいの？」

紬「いいんです」

さわこ「わかったわ、じゃあ次は梓ちゃん」

梓「ムギ先輩ありがとうございます！ベッドで！」

さわこ「よっかたわね梓ちゃん 次は唯ちゃんよ」

唯「うーん・・・どうしようかなあ・・・もうハンモックでいいや」

さわこ「じゃ自動的に遷ちゃんは寝袋ね」

遷「（まあハンモックよりマシか・・・）」

さわこ「じゃあみんな決まったところで就寝タイム！」

PM23:30

PM23:30 就寝

律「ああ〜ふかふかだあ／＼」

紬「（床が硬い．．．失敗ね）」

梓「やっと平和な時が訪れましたね〜」

唯「おっとつと．．．ふい〜油断しちゃダメだよあずにゃん」
「グーラ」

漣「そうだぞ、さわこ先生がこのまま何もしないとと思うか？」

梓「そうですね．．．」

律「いくらさわちゃんでもそんなこと．．．」

ブシューウウー．．． 鬼（顔面ワサビ）登場

唯「わあ！やっぱり！ひえっ」ズルツドシーン

律「唯大丈夫か！？」

紬「早く逃げないと！」

漣「助けてくれー！！」ジタバタ

梓「あれっ？漣先輩！？」

漣「出れないー！！」ジタバタ

鬼（顔面ワサビ） スタスタスタ キャッチ

漣「そんなああああ．．．」

罰執行

ブチユウウウウ　グリグリ　スタコラサッ

漣「んはあああああ！！はな．．．鼻があああああ~~~~！！！」
ジタバタジタバタ

唯「気の毒だね」

律「まあクイズを頑張らなかつた罰だな」

紬「りっちゃん、そんなこと言うものじゃないわ」

梓「そうですよ」

漣「ああ~~~~鼻が．．．鼻があ~~~~」ヒリヒリ

AM0:00

唯「すぴー．．．ん~~~~むにゃむにゃ」

律「くかーん~~~~きゃべつう」

紬「ゲル状が．．．」

梓「すーすー」

漣「．．．．．」

漣「(眠れない．．．)」

「(うううまだヒリヒリする．．．)」

「(怖いなあ．．．また私が捕まったら．．．)」

「(うう仕方が無い!)」ガバツ

律「ぐおー」

漣「(おいっ律!起きろ!)」「ユサユサ

律「んゝ．．．なんだよみおゝ」

漣「お前のベッドに入らせてくれ」ヒソヒソ

律「はあ?そんなのダメだろ!?さわちゃんが怒るぞ」ヒソヒソ

漣「頼む!このままじゃ私は一睡も出来ないんだ」ヒソヒソ

律「はあ．．．わかったよ、ほら入れ」パサッ

漣「ありがとう律!」ペアア

モニタールーム

さわこ「あっ!漣ちゃんズルはいけないわねえ．．．」

憂「くー．．．」

純「んがー．．．」

和「すー．．．」

ブシュウウウー—— 鬼(シャンパンケツキヤツチ)登場

唯「んあ?」

律「.....」

紬「ん〜」

梓「ふえっ?」

漣「みんな悪い!先に逃げるぞ!」ダダダッ

鬼(シャンパンケツキヤツチ) タッタッタッタ

漣「ふ〜これで私は大丈夫.....」

鬼(シャンパンケツキヤツチ) ギロツ ダダダダダ

漣「なあああああ!なんでこっちに!」

鬼(シャンパンケツキヤツチ) ダツダツダツダ ガシッ

漣「もおおお!なんでよ〜」

罰執行 補充要員2名登場 漣を押さえつける

漣「えっ!?何?何?何なんだよ!?!」

鬼(シャンパンケツキヤツチ) シャカシャカシャカシャカシャカ
グググッ パー——ン

漣「すいませんでしたあ」シクシク

さわこ「まあ許してあげるわ．．．それとしばらくは鬼を出さないからみんな寝なさい」

紬「えっ！本当ですか！？」

梓「怪しい．．．」

さわこ「ほんとのほんとよ！また続きの鬼ごっこに備えてゆっくり寝なさい」

唯「やったー．．．」クカー

律「はやっ！でも私も限界．．．」ンガー

紬「わたしも．．．」クー

梓「おやすみなさい．．．」スー

さわこ「ほら漣ちゃんも！」

漣「でも．．．」

さわこ「鬼は来ないってば！約束する！」

漣「わかりました．．．おやすみなさい」

さわこ「おやすみー」スタスタスタ

AM 6:00 起床

ブシューウウー—— 鬼（目覚ましビンタ）登場

一同「「「「「（スヤスヤスヤスヤ）「「「「「

鬼（目覚ましビンタ） タッタッタッタッタ

バチン

律「んあ〜」

バチン

紬「んん〜?？」

バチン

梓「ふへえ?」

バチン

唯「うう〜」

バチン

漣「ひゃいつ!?!」

さわこ「おはよー！ー！みんな朝よー！ー！」

唯「・・・うう」ポケー

漣「いつつ・・・」ポリポリ

律「んあ〜」ノビー

紬「ふああ」ポケー

梓「・・・」グテー

さわこ「みんな朝の挨拶よ！おはようございます！」

一同「「「「「「「「「「「「「「「」

さわこ「ほらみんな！朝だから挨拶から始めるの！おはようございます」

一同「「「「「「「「「「「「「「「」

さわこ「声が小さいわねえ．．．まあいいわ．．．はい朝食よ」

AM6:30 朝食タイム

唯「．．．．．」パクパク

漣「．．．．．」モグモグ

律「．．．．．」ズズー

紬「．．．．．」パクパク

梓「みんなボロボロですね．．．」

唯「まあね．．．」

漣「はあ．．．でもあと3時間かあ．．．」

律「ようやくここまで来たなあ」

紬「ちよつと感慨深いわねえ．．．」

梓「そうですね」

唯「でも油断は出来ないね」

律「おっいつもの唯からは考えられない発言」

漣「唯の言うとおりだな」

紬「そうねえ．．．でも今出てこられたら逃げ切れるかしら．．．」

梓「頑張りましょう．．．」

ブシューウウー—— 鬼（ビール瓶）登場

唯「わあ〜!」

漣「逃げるぞっ!」

律「もう一踏ん張りだぞみんな!」

紬「でも寝起きはつらい〜」

梓「ムギ先輩頑張って下さい!」

鬼（ビール瓶） ダツダツダツダ

紬「わたし〜!?!」

律「ムギ頑張れ!」

鬼（ビール瓶） ダツダツダツダ ガシイ

紬「も〜〜」

罰執行 *ビール瓶は飴細工です

鬼（ビール瓶） グググツ ガツシャー——ン

紬「う〜いたあ・・・でもなんかスツキリ!」

唯「うわあ頭に．．．」

漣「ムギのやつ大丈夫か？」

律「脳天直撃じゃん．．．」

梓「あっ！あれ飴細工らしいですよ」

ブシューウウウー！ー 鬼（顔面納豆地獄）

唯「へあっ！？」

漣「ええまた？」

律「ちよつと早いつて！」

梓「もうイヤです」

鬼（顔面納豆地獄） ダダダダダダダ

唯「うわあ！足も速い」

鬼（顔面納豆地獄） ダダダダ ガシッ

唯「もおゝなんでえ．．．」

罰執行

鬼（顔面納豆地獄） ネバー！ーグチャグチャベタベタ

唯「いやあああ気持ち悪い」

澪「うわあ．．．」

律「最悪だな．．．」

梓「臭い凄そうですね．．．」

紬「唯ちゃん可愛そう．．．」

唯「みんな〜」ネバネバ

澪「うわっ！こっち来るな！」

律「バカっあっち行け！」

紬「唯ちゃん来ないで！」

梓「唯先輩！トイレで洗って来て下さい！」

唯「へ〜い．．．」トボトボ

AM7:00

AM7:00

唯「あと2時間」

漣「ゴールが見えてきたなあ」

律「ここからは気合の勝負だ！」

紬「りつちゃん、最初からそうじゃない」

梓「気を抜いたのは寝ている時だけでしたよ・・・」

律「まあそうだけだな」

モニタールーム

さわこ「あの子達ようやく終わりだと思って気を抜いてるわね」

純「先生！ここは私が行って皆さんの目を覚まさせて来ます！」
ビ
シッ

さわこ「あらっ頼もしいわね」

憂「純ちゃん大丈夫？」

純「何が？」

和「忘れたの？おやつの子よ」

純「ああ〜虫食い純ちゃんね！」

憂「あの時は皆さん相当怒ってたよ・・・」

和「下手に行けば仕返しをされるかも・・・」

純「大丈夫ですって〜みなさん終わることばかり考えてあのことなんて忘れてますよ〜」

憂「そうかなあ・・・」

和「止めておいた方がいいわよ」

純「大丈夫ですよ！じゃあ行ってきまーす！」タッタッタッタ

憂「行っちゃった・・・」

和「心配だわ・・・」

AM7:30

唯「なんか時間が経つのが遅く感じるね〜」

透「そうだなあ」

律「でもあと1時間半の辛抱だ」

紬「最後まで頑張りましょう」

梓「ですね」

ブシューウウー—— 鬼純（布団たたき&ひしゃく）登場

一同「「「「「あ．．．」「」「」」」」」

鬼純「みなさーん だらけちゃダメですよー！まだゲームは続いてるんですからー！」

一同「「「「「．．．．．」「」「」」」」」

鬼純「行きますよーそれー！」タッタッタッタ

一同 ジー——

鬼純「あ．．．あれっ？何で逃げないんですか？」

一同 スタスタスタスタ

鬼純「え．．．っ．．．捕まえちゃいますよお．．．あ．．．あれっ？」

一同 スタスタスタスタ

鬼純「な．．．なんでこっちに．．．来るんです？」

紬「純ちゃん」

鬼純「はひい！？」

律「忘れたとはいわせねえぞ・・・」

鬼純「えっ・・・ま、まさか・・・」

唯「おやつおやつおやつおやつおやつおやつおやつおやつおやつ」

澪「お仕置きの時間だな」

梓「純・・・覚悟しなさい」

一同 ガシッ

鬼純「ひえええ〜！！ちょっと〜」

唯「おやつ返せー！！」「ベシベシベシ

鬼純「痛い！痛い！いたいです〜」

澪「フルーツなしのタルトを食べる苦しみがわかるかー！！」「カンカンカン

鬼純「痛い痛い痛い！澪先輩ごめんなさ〜い！」

律「ショートケーキのイチゴを取るなど言語道断じゃあー！！」「ビシビシビシ

鬼純「なああああー！！いたいいたい！！すいませ〜ん！」

絢「紅茶の恨みは深いのよー！！」「コンコンコンコン

鬼純「ひいひいひい！許して下さいーい！！」

梓「最後に私から．．．くらえっ！あずにゃんタイキー！ーック
！！」バチコーーーン

鬼純「はぎゃあああああああああ！！」

一同 ハアハアハアハアハア

鬼純「ふえええええええん〜せんせえ〜」ビエーン タッタッタ
ツタツタ

一同「「「「「ごまあみる！」「」「」「」

AM 8:00

唯「よーしあと1時間！」

澪「本当に．．．辛かったあ」

律「でもようやく終わるなあ．．．」

紬「そうねえ」

梓「終わったら家でグッスリ寝ます」

唯「私も〜」

澪「私だつて．．．」

律「24時間は眠れるな．．．」

紬「（私は．．．ウフフ．．．画像データで．．．）」ハアハア

梓「（この人は．．．）」

唯「ねえ振り返ってみない!？」

漣「何をだ？」

唯「このゲームをだよ」

律「あっいいかもなあ」

紬「何だかんだでもう終わりだものね」

梓「やりましょう!」

唯「じゃあどの罰が1番イヤだったか言い合おう!」

唯「じゃあまずあずにゃんから!」

梓「私ですか?そうですね・・・色々辛かったんですけど・・・」

唯「うんうん」

梓「やっぱり顔面パイですね」

唯「おおくなるほど」

漣「私はてつきりタイキックって言うと思ってた」

梓「ああゝあれも痛かったんですけど・・・パイよりはマシですよ」

紬「本当に?」

梓「本当ですよ、ほらっ髪の毛にまだパイが付いていますよね?」

律「どれどれ・・・うわっこびり付いてんなあ」

梓「これはイヤですよ．．．」

唯「じゃあ次はムギちゃん！」

紬「そうねえ．．．私は虫食いかしら．．．」

唯「ああく純ちゃんのヤツね」

律「まああれはなあ．．．」

梓「度々すいません．．．」

紬「私、みんなでティータイムするのって大好きなの」

紬「それを壊されたのは．．．本当に嫌だったわ」

唯「あれはひどかったもんね．．．」

紬「まあ最後に復讐出来たからいいけど」

漣「（ムギってやっぱり怖い．．．）」

唯「じゃあお次はりっちゃん！」

律「そうだな．．．私は超悪臭靴下だな」

梓「あれですか．．．」

律「実はまだ少し臭うんだ．．．」

漣「本当か？」

律「あの臭いは酷かったなあ．．．ムギ、あれは何の臭いだった言
つたっけ？」

紬「腐ったゲ　ウ　コのこと？」

梓「わあ！さらっと言わないで下さい！」

漣「こらっバカ律！」ポコッ

律「いつてえ．．．」

唯「あははは面白かったね、あれは／＼」

唯「じゃあ次！漣ちゃんの番だよ」

漣「私は．．．ん、色々あったけど．．．」

唯「何々!？」

漣「うん．．．やっぱり恐怖たい．．．」

ブシューウウー——　鬼（へび背中入れ）登場

唯「ひええ！」

漣「もおこんな時に！」

律「げっ！へび背中入れ!？」

紬「捕まったら大変だわ」

梓「絶対にイヤです！」

鬼（へび背中入れ）　ダツダツダツダツダツダ

漣「いやあああああ！」

律「うわああああ！」

唯「あつあつちに行つてくれた．．．」ゼーゼー

紬「私達は．．助かったわね．．」ハアハア

梓「しかも．．壁際に追い込まれてますよ．．」ハアハア

鬼（へび背中入れ）　ダツダツダ　スタスタスタ

漣「絶対にイヤだああああ！」

律「おいおいおいおい！どうする！？」

漣「お前捕まれよ！」

律「なんでだよ！」

漣「お前へびは平気だろ！？」

律「そんなわけあるかあ！」

鬼（へび背中入れ）　ジリジリジリジリ

漣「ひいいい．．どうするんだよ！？」

律「よし！二人共別々の方向へ逃げよう」

漣「まあそれが妥当だな．．」

律「恨みっこなしだからな！」

漣「わかつてる！」

漣律「「せーのっ」「ダダダッ

鬼（へび背中入れ）　ダダダダダダ

漣「いやあああああ！なんでこっちに〜！！」
律「助かったあ．．．」

鬼（へび背中入れ）　ダダダダダ　ガシッ

漣「やだあああああ！！」

罰執行　補充要員5名登場　漣をガツチリと押さえる

漣「やだあああ！！いやああ助けてえええええ！！」　ジタバタ
ジタバタ

鬼（へび背中入れ）　ニヨロニヨロニヨロニヨロ　ポイツ

漣「ひしぎゃあああああああああああああ」　ドタバタ
ガシヤン　ドタン

唯「うわあああ．．．」

律「今までにない暴れようだな．．．」

紬「そんなに嫌かしら？」

梓「嫌ですよ．．．」

漣「はあはあはあはあはあはあ．．．」

唯「あの〜．．漣ちゃん改めて聞くけど一番嫌な罰は　漣「今のヤツだっ！！！！」

唯律 絀梓「」「」「」

唯「じゃ．．．じゃあ最後は私ねっ！」

律「お．．．おうっ！唯は何なんだあ！？」

唯「私はねえ〜．．．ん〜さっきの顔面納豆かな？」

絀「あれは嫌よねえ」

唯「うん．．．まだ臭うの．．．」

律「どれどれ．．．うわっクサッ！」

梓「律先輩ひどいですよ！そんなに臭いわけ．．．」クンクン

梓「ひえっ！くしゃいです〜」

絀「唯ちゃん臭いわ．．．」

唯「そんなあ．．．どうしよ〜」

漣「トイレの石鹼で顔を洗ったらどうだ？」

唯「うう〜そうするしかないかあ」トボトボ

律「漣復活したのか？」

漣「まあな．．．」

AM 8 : 3 0

AM 8 : 3 0

唯「やっと終わる．．．」

漣「長かった．．．」

律「壮絶だったなあ」

紬「でも．．．結構楽しかったわ」

梓「私もです．．．」

唯「そうだね、みんなと一緒に24時間も居たわけだからねえ」

漣「ハプニング続きのキャンプみたいなものか？」

律「そんな感じだな」

紬「みんなと心が一つになれた気がするわ」

梓「これでより一層絆が深まりましたね」

唯「私みんなのこと大好き！」

漣「私だって！」

律「これからもずっと一緒だからな！」

紬「離れていても心は一つよ！」

梓「みなさんと出会えて本当に良かったです！」

ポンポンポンポン

一同「うわあああ！」

さわこ「やつほーーーーー」

唯「最後の最後で・・・」

漣「慣れたと思ったのに・・・」

律「すげー悔しい」

紬「これも思い出の一つね・・・」

梓「まあそうですよね」

さわこ「あらみんなうんたかいい顔してるじゃない」

唯「そりゃね」

漣「ああ」

律「そうだな」

紬「うふふ・・・」

梓「ですよね」

さわこ「???何よみんなして・・・まあいいわ、それより私からの個人的なプレゼントがあります!」

唯「食べ放題!」

漣「ポールのベース!」

律「キースのステイック!」

紬「画像データ!」

梓「日焼け止め!」

さわこ「それじゃなくて、別のものよ!」

一同「?????」

さわこ「この日の為に私と和ちゃん、憂ちゃん、純ちゃんの4人で

練習した曲を聴いて欲しいのです!」

唯「おおサプライズ!」

漣「何を演奏するんです?」

さわこ「『冬の日』よ」

律「えっ? 私達の曲の??」

さわこ「そうよ! みんなで一生懸命練習したんだから!」

紬「嬉しいわねノ」

梓「いつの間にしてたんですかね・・・」

さわこ「それと私達なりにアレンジも加えてあるの」

漣「アレンジ?」

さわこ「歌詞にこのゲームでのあなた達を描いてみました」

律「何言ってるの?」

さわこ「だーから! 替え歌よ! 替え歌!」

唯「へえ〜面白そうだね!」

さわこ「ちなみに歌詞はみんなですつき考えました」グツd

梓「なんじゃそりゃ・・・」

さわこ「とにかく聴いてね！準備するから！」スタスタスタ

AM 8:50

唯「あと10分で9時になるけど・・・」

漣「遅いなあ・・・」

律「まつたく・・・」

紬「最後までいビシッと終わりたいわ」

梓「グダグダは嫌ですよね・・・」

さわこ「お待たせー！！！」

唯「あつ！いつの間にかステージに」

漣「ベースは鈴木さんかあ」

律「ドラムは和がやるのか？」

紬「ボーカルが先生で・・・」

梓「ギターが憂みたいですね」

さわこ「では聴いて下さい！冬の日々24時間耐久鬼ごっこバージョンです！」

和　　ダダダダダダ

憂 ジャーン ジャジャジャジャー
純 ベンベンベンベン

『冬の日』24時間耐久鬼ごっこバージョン』

どんなに走っても結局捕まる 罰ゲーム

あずにゃんのお尻に 強烈タイキック

和ちゃんが登場 唯に噛み付く

さわこ先生マジギレ 鬼を大量導入

紬が壊れた昼食時 律の下ネタ原因

トイレに行く時注意しなよ 鬼が待ってるよ

憂のデーパーキス梓はマジデレ 顔真っ赤

続々と鬼として 友達登場

エリちゃんとアカネちゃん 本当いいヤツ

でも鈴木純だけは 本当に鬱陶しい

校長登場律に吹き矢 プレデタービンタに唯啞然

漣ちゃんクイズで最下位よ ズルはいけないね

起床時から 罰を受けるのよ

体痛むことも 増えた気がするけど

朝食くらいゆつくりと 食べさせてよさわこ先生 鬼出すな

最後に怒涛の鬼のラッシュ ビール瓶 納豆 ヘビ入れ

さすがに疲れたでもファイトよ 終わり近いから

結局最後はみんないい感じ さわこ先生に感謝ね

今度は48時間 行う予定です

さわこ「いえーいーいー!さんきゅー!」

AM 8 : 59

AM 8 : 59

さわこ「さああなた達．．．もうすぐ24時間達成よ！」

唯「あゝ本当にこれで終わりだ．．．」

漣「凄いゲームだったなあ．．．」

律「ゲームはゲームでも罰ゲームだよ．．．」

紬「私は楽しかったわ／＼」

梓「タフですねえ．．．」

さわこ「りっちゃん、罰ゲームにご褒美はつかないわよ」ガラガラ
ガラ

唯「ついに食べ放題が．．．」キラキラ

漣「ついにポールのベースが私のモノに．．．」ウキウキ

律「憧れのキースのドラムスティック．．．うう．．．嬉しすぎる．

．．．ウルウル

紬「帰ってもいいものを見させて頂きます」ニコニコ

梓「これで日焼けともオサラバです！」ランラン

終了30秒前

さわこ「さあ後30秒！」

一同「「「「「（おわった）「「「「

終了20秒前

さわこ「あと20秒！10秒前からみんなでカウントするわよ！」

一同「「「「「はいっ！」「「「「

さわこ「24時間耐久鬼ごっこ終了まで 10！」

和「9！」

純「8！」

憂「7！」

梓「6！」

紬「5！」

律「ふざけんなあああああああ！！！！」ビシバシバシビシ
ビシバシビシバシビシバシバシビシビシバシビシバシビシバシ
ビシビシバシビシバシ

紬「うひょおおおおおおおおお！！！！」ビシバシバシビシ
ビシバシビシバシビシバシバシビシビシバシビシバシビシバシ
ビシビシバシビシバシ

梓「いやあああああああああ！！！！」ビシバシバシビシ
ビシバシビシバシビシバシバシビシビシバシビシバシビシバシ
ビシビシバシビシバシ

24時間耐久鬼ごっこ 終了

唯「・・・・・・・・」ダラーン

澪「・・・・・・・・」ポケー

律「……………ゴローン

紬「……………ピクピク

梓「……………グデー

唯「何だったの……………」

澪「わからん……………」

律「いてえ……………」

紬「すごかった……………」

梓「怖かった……………」

一同「……………あつっ!!」「……………」

チケット、ベース、スティック、メモリー、クリーム
口ボロ
ミシナボ

漣「これは．．．はっ！もしかして．．．！なあああああああああああ！．．．！」

律「何だよ漣．．．」

漣「りっく．．．このベース．．．』ぼーるまっかーとにー』つて書いてある．．．」

律「うわっひらがなで．．．ま．．．まさか私のも．．．！！だああああああああああ！！！」

紬「りっちゃんどうしたの？」

律「ムギ．．．これスティックじゃない．．．さいばしだ．．．」

紬「あらゝ酷いわねえ．．．私も気になる！よし！ケータイ差し込んでチェック！」ピッピッピ

紬「のわああああああああああああ！！！」

梓「ムギ先輩どうしたんです！？」

紬「梓ちゃん．．．これ．．．生徒の百合（花）の観察日記よ．．．」

梓「私には何が酷いかわからないんですけどお気の毒です・・・ま
つまさかこのクリームも・・・」ペロッ

梓「ぎゃにゃあああああああああああああああああああ
！」

唯「ヒック・・・あずにゃんどつしたの・・・？」

梓「唯せんぱい・・・これ・・・ヨーグルトです・・・しかも腐
ってる・・・」プーン

唯「ええ〜!??ヒドい・・・」

一同「「「「「あの女あああああ〜〜〜!」「「「「メラメラ

モニタールーム

憂「ひいいい・・・みんなかなり怒ってるよ」アセアセ

純「先生!どうするんですか!?!」

和「あれっ・・・先生何してるんです?」

さわこ「何って逃げる準備よ！」エツサホイサ

憂「先生何とかして下さい！」

純「そうですねよ」ビクビク

さわこ「ほとぼりが冷めたらまた戻って来るからっじゃあね！」ス
タコラサッ

一同「「「「「ぜつつつたいに復讐してやる！……！！」「」「」「」

完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8417x/>

24時間耐久鬼ごっこ×けいおん

2011年10月23日20時27分発行